

# ロータリーの扉を開く

(職業奉仕の扉を開く)

19/ 1/16 卓話

岐阜北ロータリークラブ様

第2630地区 職業奉仕部門委員長 山本和彦

# クラブを衰退に導く方法は極めて易しい

- 1、ロータリーを深く考えない
- 2、知ろうともしない
- 3、何事も伝承伝達しない
- 4、前例のまま穏便に形だけ真似て行く

そのうちわかるって

難しいこと言わんでまあ一杯🍺🍶

働いているのは一部の委員長😱だけ

事務局👩🏻任せて

格好\_\_φ(￣ー￣)だけ

地区が開催する研修会に出席しても報告無し  
させようもしない

あなたは何故このクラブに入会したのですか？

あなたは何故 今日この例会に出席しているのですか？

あなたを誘った方＝推薦者🎩

その人格を信用したからこそ入会したのではありませんか？

そして信頼される推薦者＝輝けるロータリアンが集まれば  
クラブは自然に栄えるだろう

・🦋・🦋花開けば 蝶 自ずから集う・🦋・🦋

ではロータリアンとはどんな人

荒涼とした世情の1905年2月23日 雪と氷に閉ざされたシカゴの夜 友を求めて肩を寄せ合った

ポール・ハリス ハイラム・ショーレー  
シルベスター・シール ガスターバス・ローア

その語らいの集いからロータリーが始まった  
例会そのものがロータリーであった

1906年この集いはポールハリスによってROTARYと  
名付けられ30名の仲間が集まって  
シカゴロータリークラブが創設された

信頼はお互いを認め合う寛容の心に培われ  
仲間意識の絆 親睦も固く結ばれ・・・

虚偽と欺瞞の商取引が普通だった時  
信頼は安心につながりお互いの商取引も  
だんだん盛んに行われる様になった

この様にしてポールハリスから分かち与えられた  
ロータリーは4人から今日120万人のFellowに発展した

信頼と寛容の心に培われ一つ心に結ばれた  
同志・仲間=Fellow  
その固い絆：Fellowship=親睦

♪ 集いて図る心は一つ ♪

それはどのような心？

それは ロータリーの原点

それは ロータリーアンの「心の原点」



．．．原点とは．．．

綱領．．．．．奉仕の理想 (The ideal of service)

決議23-34．．．．．二つのモットー

職業奉仕．．．．．四つのテスト



[綱領]

ロータリーアンは何を信じ何をなすべきか？

The Object of Rotary

The Object of Rotary is . . .

**the ideal of services** a basis of worthy enterprise . . .

ここで、

「The ideal of service」 の和訳について . . .

(和訳) 奉仕の理想 (理念) は今日的に言えば  
「理想的な奉仕の理念」と表現すべきか

・ ・ ・ <かのときに言いそびれたる大切な

言葉は今も胸に残れど> ・ ・ ・

啄木

この時代には「**大切な**」と言っているが今なら  
「**大切な**」と言うだろう

## ロータリーの目的（綱領）

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎と  
して**奉仕の理念**を奨励し、これを育むことにある。

（理想的な奉仕の理念）

ロータリーではこの様に原文の英語と日本語とが乖離した状態にある言葉が多用されている

これがロータリーを理解し難くさせている大きな原因であり解明しなければならない問題である

私はこのような言葉を「ロータリー語」と称している

## では、ロータリー語とは？

大正から昭和にかけて日本に導入された時  
ロータリー関係の英語の

- 1、和訳した漢字の造語
- 2、注釈要の和製英語に変化したもの
- 3、解釈要の用語

以上の様に分類されると思いますが  
その遠因としては・・・

古事記を書いた太安万侶（おおのやすまる）の時代  
日本には話し言葉しかなく文字は漢字のみで文章は  
漢文でしか書けなかった  
やがて「漢字仮名交じり」が生まれ明治になり  
「言文一致体」ができた

1920年・大正9年 ロータリーが導入された当時  
それまでの日本人の思考にはない概念規定の英語  
を漢字で表すには造語や当て字しかなかったと考  
えられる 我々の先人は太安万侶と同じ苦労をさ  
れたのではないのでしょうか・・・・・・・・

## 「決議 23-34」

ロータリーを語る唯一の哲学文献綱領の実践指針

第1項は特に重要      その説くところは・・・

ロータリーは基本的には一つの人生哲学であり それは利己的な欲求とたとえ義務であれ 他の人に奉仕したいと言う感情との間に 常に存在する矛盾を和らげようとするものである この哲学は奉仕 即ち「超我の奉仕」の哲学であり

「最もよく奉仕する者 最も多く報いられる」という実践的で職業倫理に適った原則に基づくものである



『例会』；例会は日本のロータリーの姿の原点

1920年 東京クラブ創立 軍国主義の世 右翼の迫害の中 各地でRクラブが誕生

1937年 日中戦争勃発

1941年 第二次世界大戦に参戦

1945年 米軍の都市空爆始まり 降伏終戦

<往時を偲んで今も歌う>

・・・奉仕の理想に集いし友よ

御国に捧げん我らの生業・・・

1935年



1940年 東京Rクラブ解散 RI脱退

その時米山梅吉は挨拶で「奉仕の理想はあくまで  
堅持したい」と述べたと伝えられる

しかし多くのクラブがロータリーの名を隠して例会を  
守り続けた なんの奉仕も儘ならぬときに 残ったのは  
例会 心置きなき友との集い

例会それは・・・

童心に還って過ごす 安らぎの異次元世界 そして  
高い倫理観を持った人間性を磨く学びの道場

そして . . . . .

## 親睦

. . . 楽しくなければロータリーでない . . .

懇親会の準備も渾身の奉仕で

ここで言う「親睦」はこれもロータリー語であります

親睦⇒Fellowship=仲間・同士=ひとつ心に集う者

・ ・ ・ 手に手 輪に輪 広がれまわれ ひとつ心に🤝 ・ ・ ・

飲み会 🍺 や遊び会 🏌️ 🀄 を意味する言葉ではない

それは仲間の絆を強くする手段

例会を作る；クラブ奉仕の最も重要な絶え間ない奉仕活動

・ ・ 例会が開かれるからあなたは出席するのではない  
あなたが出席するために例会が開かれる ・ ・

・・・つとむるところは向上奉仕・・・

例会はロータリーの姿の原点 全ての奉仕活動の源

「五大奉仕の変遷」；一つの奉仕は五つの奉仕から

奉仕の分類から理念へその捉え方が変わった

2000年を過ぎる頃からCLPの概念が導入され

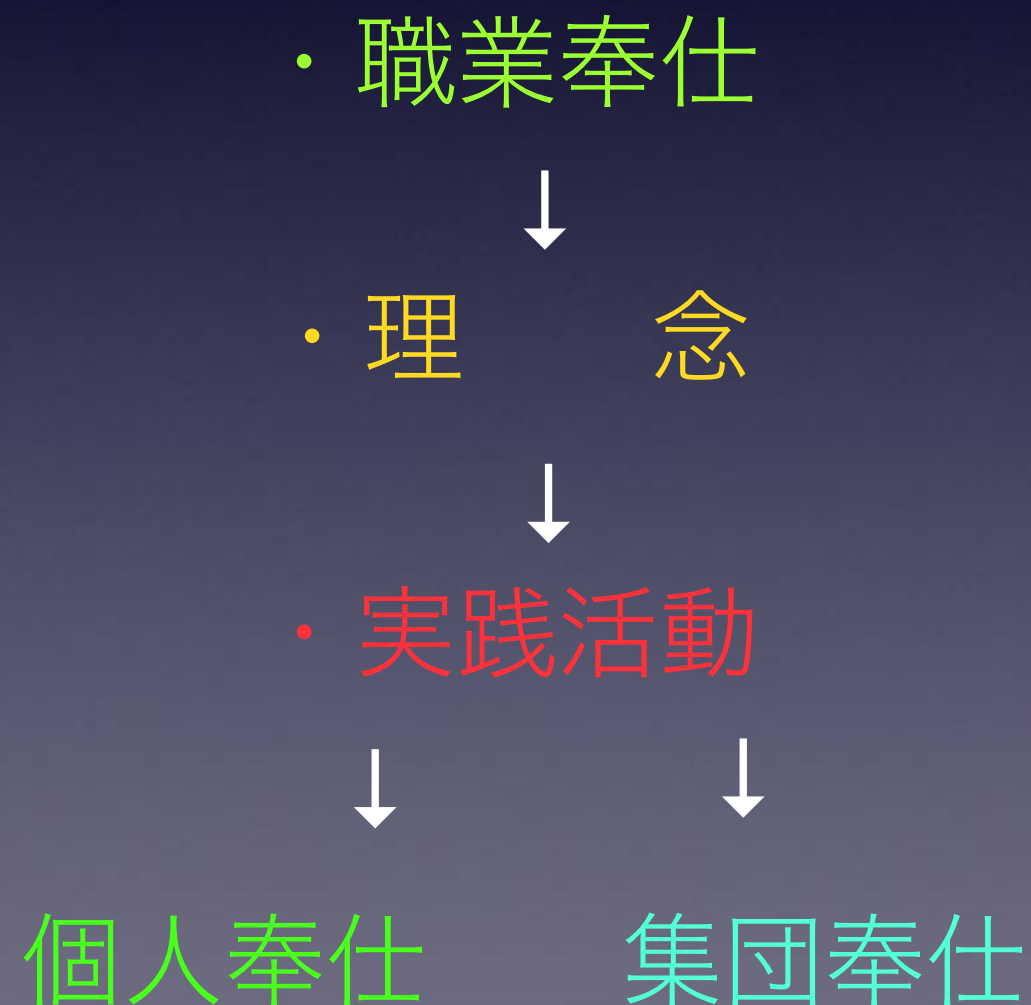
2016年版手続要覧では五大奉仕は奉仕部門（手段）

の章から基本理念の章に編入されている

一つの奉仕活動の中には様々な五大奉仕の要素が混然と混じり合っている　そして全ての奉仕活動は職業奉仕の基盤の上にある

職業奉仕； 日本のロータリーが継承する誇りある伝統

職業奉仕という言葉には「理念・活動」の二つの  
意味が混在している 区別して考えないと職業奉仕は  
難解となる



人という姿形が心の動きによって行動するように

職業奉仕＝姿

職業奉仕理念＝心

職業奉仕活動＝行動 ⇒ 個人  
集団

個人奉仕活動の実践：

- 1、職業奉仕理念を以って日々の生業を営み
- 2、自己の職業上のスキルを集団奉仕に生かす

# 集団奉仕活動の実践：クラブが行う職業奉仕

## 1、会員に正しい理解を得る研修

研修セミナーに出席したら内容を会員に伝達する  
研修卓話・フォーラム・情報集会を実施する

## 2、会員の職業上の手腕・技術・才能・地位・・・を 社会の問題や要望に役立てる企画

## 3、会員の家族・従業員・一般社会へ啓発普及を 図る企画



## 4、クラブの広報に資する社会的奉仕活動の実践

具体的な例を挙げれば 四つのテスト 普及運動

奉仕の実例のある職場例会開催

青少年育成に資する出前講座・体験入社など

職業奉仕の理念は不易

その実践は流行

集団奉仕は個人奉仕の訓練のためにある

(決議23-34)



職業奉仕理念の実践指針は

He Profits Most Who Serves Best

最もよく奉仕する者最も多く報われる

Arthur Frederick Sheldon

1903年経営学の学校を営んでいたシェルドンがセールス成功の原理を説いた標語　ロータリーに入会したシェルドンは1911年職業奉仕の理論を発表しその中でこの言葉を語った

二つのモットーも四つのテストも職業繁栄を願って作られている

あらゆる奉仕活動も寄付もロータリアンの才能と手腕  
職業の繁栄によって得られた社会的な地位や経済力によって展開している      ロータリアンの職業の繁栄無くしてロータリーなし      その職業の繁栄それはコンプライアンスを超えたところにある奉仕の理想を職業の理念とし倫理に基づき同業の範となるに相応しく高潔な仕事によって得られてこそ・・・

職業奉仕：

職業奉仕という言葉 **Vocational Service** の和訳  
これぞロータリー語の最たるもの  
概念規定のない完全な造語

vocationalservice = 職業奉仕

## Service:

辞書では：第1義に；「役に立つ働き」

以下・・・第16項「♀に対する♂の・・・」

他18項ものの和訳がある

＊これらいずれも 「自己の肯定」＝我あり

## 奉仕：

辞書では； 1、長上・神佛・君主・師に謹んで仕えること

2、私心・自己を棄てて尽くすこと

3、客の得になる様に計らうこと

＊これらいずれも「滅私奉公」・「自己の否定」＝没我

＊意味＝定義を明確に規定しなければならない  
綱領の主文を当てはめれば

．．．職業奉仕とは．．．

奉仕の理想を職業の基礎理念とし  
その具現化に努力することである

ロータリアンの内省・・・その座右の銘は四つのテスト

「四つのテスト」： Of the things we think, say or do:

- 1 Is it the TRUTH ?
- 2 Is it FAIR to all concerned ?
- 3 Will it build GOODWILL and BETTER FRIENDSHIPS ?
- 4 Will it be BENEFICIAL to all concerned ?

この仕事は幸せをもたらすだろうか

客も 仕入先も 下請けも従業員にも 家族にも  
周りのみんなに波紋のように笑顔の輪に輪が広がるだ  
るだろうか、と自問しながら日々の生業に生かしてい  
きたい。

自らの利益を求めて奉仕をするという「功利主義」  
的な思想ではなく他人のために役立つことが自らの  
幸せであるという他者に奉仕すること自体を目的と  
する「利他主義」の思想です。



と、以上のような教科書的な説明を踏まえた上で、  
今月の月信にも寄稿したのですが私なりの  
わかりやすい職業奉仕についてです。



- ・残念なことに職業奉仕は難しい討論や紛糾する異論に包まれてきました。  
結果、難解な言葉や何々派の理論がどうだとか、その視界をくもらす結果となり、We serveに対してI serveだとか、慈善団体や寄付団体ではないとか、他のクラブや団体を引き合いに自分のクラブを、または活動を紹介することも多く、ロータリーの職業奉仕を簡単明瞭に説明ができない、そんな不自然さを感じておりました。

もっと明快に簡潔に職業奉仕は定義づけられてもいいのではないかなと考えております。それは誰もそれを誤解したり忘れたりすることなどできないものとしてです。

【簡潔に職業奉仕とは、我々がその職業において、  
または職業を通して、他人に幸福をもたらすことであり、  
他人に奉仕することであると考えます。】

地域社会において、多くの奉仕をなし得る人もあります。  
なし得ない人もあります。

国際奉仕や青少年奉仕には興味がない、またはその手立  
てがない、ということもあるでしょう。

しかし、職業分類された自分たちの職業を通じてロータリー  
の奉仕をすることはロータリアンとしての心構えや義務と  
言ってもいいと思います。

そしてそれは、我々がしなければならないあれやこれや  
の事柄を指すのではなく、ロータリアンがいかに関わるか  
という生活態度に関わってくるものではないかとも考えます。

我々は「超我の奉仕」で実践行動し、結果として  
「最もよく奉仕する者最も多く報われる」。

その時に、その行動、言動を「四つのテスト」に照らし  
合わせてみる。

- ・ 真実かどうか
- ・ みんなに公平か
- ・ 好意と友情を深めるか
- ・ みんなのためになるかどうか。

反省をしてみることに。

「四つのテスト」の前書きに

「言行はこれに照らしてから」とあり、  
「Of the things we **think** say or do」がその原文ですが  
「言行」だけでなくその前に「**think**」とあるように、  
**テストとして照らす**という意味から、  
テストに**反することはしてはいけないし、**  
**考えてもいけない**という具合に捉えること  
が出来るのではないのでしょうか。

「四つのテスト」とは、要するに

- ・ 軽率なことをするな、
- ・ いい加減なことを言うな
- ・ 軽挙妄動をするな
- ・ 自分の損得は抜きにして相手のことを先に考えよ

ということ。

これを突き詰めていくと人格の問題に突き当たります。

ですから「職業奉仕」とは

「人格の形成・人づくりから出発する」

ということになると考えます。

ロータリーの例会を「人生道場」ということをよく聞くことがあります。

まさにこれこそが職業奉仕の出発点だと感じております。

例会で、超我の奉仕の真髓を極めた立派な先輩の身近に座り、初めは真似でも良い、その境地を学ぶこと。

ロータリークラブは自分の意思でどここの例会にでも出席することができます。

いろんな人たちとの出会い、交流から多くを学ぶことができます。

そして、



「入りて学び出でて奉仕せよ。

入りて理念を学ばずして出でて  
の奉仕成らず。

ロータリーの例会は、入りて学ぶ人生道場。」



# まもなく100年を迎える日本のロータリー

社会構造 環境は時代と共に様変わりします  
しかし、どんな時代にも

職業奉仕とは

【我々がその職業において、または職業を通して、  
他人に幸福をもたらすことであり、  
他人に奉仕することであると考えます。】

ご静聴ありがとうございました

